

研究実施のお知らせ

2016年8月22日 ver.1.0

研究課題名

バレット食道の臨床的特徴と長期経過に関する検討

研究の対象となる方

2001年1月から2021年9月の間に島根大学医学部附属病院で内視鏡検査を受けてバレット食道と診断された方のうちで、3cm以上の長さがあり、さらに診断されてから1年後以降に再度内視鏡検査を受けられた方。および、当院の内視鏡検査で3cm以上の長さのバレット食道内に腫瘍が認められた方。

研究の目的・意義

食道は扁平上皮で覆われていますが、慢性的に胃液が食道に暴露される状態(=胃食道逆流症)が続くと、下部の食道は円柱上皮に置き換わる変化が生じます。この状態をバレット食道といいます。バレット食道は欧米に比較して我が国では稀な疾患とされ、これまであまり注目されてきませんでした。最近、わが国においても胃食道逆流症の患者さんが増えており、それに伴ってバレット食道の患者さんも増加していることが指摘されています。さらに、バレット食道を背景にして生じる癌(食道腺癌)も増加しています。癌の発生はバレット食道の長さに関係していることがわかっており、3cm以上の長さのバレット食道では3cm未満のものよりも発癌のリスクが高いとされています。これまでの調査では、3cm以上の長さのバレット食道は内視鏡受検者の0.2%程度しか認められないため、臨床像や長期経過については、十分な評価が行われていませんでした。また、わが国ではバレット食道の患者さんの治療や経過観察に関するガイドラインも作成されていません。人口の高齢化やヘリコバクター・ピロリ感染率の低下などを背景に、今後もバレット食道は増加することが予測されており、バレット食道の経時的な長さの変化や発癌に関わる因子を明らかにすることは、バレット食道患者さんの適切な治療計画をたてる上で重要と考えられます。

研究の方法

今回の研究では、当院で内視鏡検査を受けて3cm以上の長さのあるバレット食道と診断された患者さんのカルテから以下のデータを収集させていただきます。

- 1) 患者基本情報(初回診断時年齢、性別、身長、体重、基礎疾患、既往歴、内服状況、飲酒・喫煙の有無)
- 2) 臨床症状
- 3) 血液検査所見、ヘリコバクター・ピロリ感染の有無

- 4) 内視鏡所見
- 5) 病理組織所見
- 6) 腫瘍の合併例では病変部位、進行度、治療内容、再発の有無、転帰

評価方法としては、バレット食道の長さに関連する因子や腫瘍の発生に関連する因子について統計学的な解析を行います。

なお、この研究で収集したデータは島根大学医学部内科学講座(内科学第二内)で厳重に取り扱います。パスワード等で制御されたパソコンに保存し、施錠可能な場所で保管します。研究結果公表の際にも、個人を特定できない形で関連学会および論文にて発表する予定です。

研究の期間

2016年10月～2022年3月

研究組織

この研究は島根大学医学部内科学講座(内科学第二)が行います。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身のデータを研究に利用してほしい方、その他ご質問のある方は次の担当者(研究責任者)にご連絡ください。

研究責任者: 島根大学医学部附属病院 消化器内科 石村 典久
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2187